

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立黒瀬中学校	校長	三原 隆行	生徒指導主事	岡 真吾
------------	------------	-----------	-------	---------------	------

取組事例名	『縦割り活動による体育大会』
--------------	----------------

取組における育てたい資質・能力					
------------------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的人間関係を育む」	3	「主体性・積極性」	1	「自己肯定感」	2

取組のねらい					
---------------	--	--	--	--	--

○生徒が主体的に活動することにより、運営の能力と生徒会活動の活性化を図る。
 ○安全な行動や規律ある集団行動を通して仲間と協力し、団結することの喜びを味わせる。

生徒会を中心に縦割り活動で行っていくことで、異年齢の集団の中で互いに切磋琢磨し、生徒の主体的な活動を向上させる。また、上級生がリーダーとなり後輩を思いやり、後輩が先輩を尊敬しながら活動を進めていくことで、共感的人間関係を育むとともに自己存在感を与え、自己指導能力の向上につなげていく。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『前向き』
----------	------------------

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 保健体育科・生徒会による縦割り体育大会案の提案（7月） (2) 企画委員会等での検討（7月） (3) 生徒会による具体案の企画立案（7月～8月）
3密を避けた種目を検討する生徒会執行部 (4) 練習（9月）コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されたため、縦割り体育大会中止。→学年対抗体育大会へ変更 (5) 学年別の体育大会となったが、当初から計画していたダンス等は、先輩からの後輩への指導、お互いの成果を確認し合う時間を作った。 | <p>学校教育目標である「前向き」をキーワードに、すべての行事で、主体的・前向きに取り組めるように仕組んだ。</p> <p>取組①
各学級でリーダーを選出し、結団式に向け団ごとに、話し合いを進めた。</p> <p>取組②
全校で発表予定だったダンスは、異学年での交流や成果を確認し合う時間を作った。</p> <p>取組③
体育大会前後で、意気込みや大会終了後の感謝のメッセージカードを異学年で伝えあうことを計画したが、縦割りが中止になったため、各学年・学級でそれぞれを認め合う取組を行った。</p> |
|--|---|



取組の成果と課題

成果：中止となった縦割り体育大会に代わり、学年別体育大会を行った。生徒会・学年リーダーが中心となって再度企画運営することで、生徒の主体的な活動を推進することができた。また、異学年での交流を仕組んでいったことで学年を超えた共感的人間関係の形成につながり、令和2年度15件あった生徒間暴力が令和3年度は5件に減少し、異学年間の暴力も1件に減少した。

課題：来年度は、今年度できなかった縦割り活動を年間通して実施していけるように、3月中に来年度の計画を完成させる。生徒の主体的な活動を支援し高めていく校内体制について充実させていく必要がある。生徒とともに現状を見直し改善していこうとする教員側の意識や意欲に課題がある。